

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K17059

研究課題名（和文）臨床情報・ゲノム情報を活用した統合失調症神経ネットワーク形成障害の神経病理解析

研究課題名（英文）Neuropathological analysis of abnormality in neuronal network formation of schizophrenia based on clinical and genomic information

研究代表者

鳥居 洋太 (Torii, Youta)

名古屋大学・医学部附属病院・講師

研究者番号：90754945

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：統合失調症死後脳、生前の脳神経画像や長期の臨床経過等の詳細な臨床情報、及び、神経病理学的情報をデータベース化した。その中から疾患と認知機能障害との関係について特に着目し、統合失調症の中には、ごく軽度の加齢性変化に対し、脆弱性を有する一群があることを臨床神経病理学的に確認した。また、稀なゲノム変異を有する統合失調症死後脳において、免疫組織学的検討を行い、大脳皮質や、GABA神経系、カテコラミン神経系、オリゴデンドロサイト/ミエリンの形態学的変化を明らかとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

実際の統合失調死後脳を用いて、臨床経過と神経病理学的所見から、統合失調症に晩年生じる認知症状態の神経病理学的背景を確認した。さらに、稀なゲノム変異を有する統合失調症では、大脳皮質や、GABA神経系、カテコラミン神経系、オリゴデンドロサイト/ミエリンの形態学的変化を明らかとした。臨床経過やゲノム変異に基づいた組織学的変化を確認したことによって、疾患の脳病態の理解が進むと考えられた。

研究成果の概要（英文）：Clinical and neuropathological information of postmortem brains of schizophrenia was compiled into a database. The information includes antemortem neuroimaging and long-term clinical course. We focused association between the disease and neurocognitive impairment in the database, and revealed that some of schizophrenia have vulnerability for very mild age-related changes based clinico-neuropathological observations.

Moreover, we immunostained postmortem brains of schizophrenia with rare variants, and revealed morphological alterations of cerebral cortex, GABAergic system, catecholaminergic system or oligodendrocyte-myelin.

研究分野：神経病理

キーワード：統合失調症 神経病理 死後脳

1. 研究開始当初の背景

統合失調症は人口の約 1%に発症する精神疾患である。慢性的な精神症状により、長期間にわたる生活機能の低下を余議なくされ、高い自殺率や、一般人口と比較し低い平均余命など、社会的、身体医学的に重大な問題を抱えている。しかし、病因・病態は依然として不明なままであり、患者・家族及び一般社会から病因・病態に即した治療法の開発が望まれている。

統合失調症の病態仮説としては神経発達障害が提唱され、神経の発達、成熟、分化および神経ネットワークの形成に障害が生じていると推量されている。神経生理(Hunt et al., Trends Neurosci, 2017)及び神経画像解析(Levitt et al., Am J Psychiatry, 2017)により神経ネットワーク形成障害が報告され、また、ゲノム解析でもリスク遺伝子として神経ネットワーク形成に関与する遺伝子が抽出されている(Fromer et al., Nature, 2014)。これら神経生理、画像、ゲノム解析研究の知見から脳病態理解に至るには、実際の統合失調症脳組織の神経細胞および線維の構築の観点から、脳組織病理による神経ネットワーク形成障害を明確化することが不可欠である。

しかし、操作的診断基準による統合失調症という疾患単位には症候学的にも生物学的にも多様な病状・病態が混在しており、得られた脳病理所見が実際の病態(臨床症状や神経生理・脳画像上の変化等)のどのような側面を反映しているのかを明らかにするには、詳細な臨床情報やゲノム情報に基づいて細分化した検討を行う必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、蓄積された神経画像や詳細な臨床情報、CPC を行った神経病理学的診断情報をデータベース化し、その中から特定の臨床所見や臨床経過を有する群を表現型として見出し、神経病理学的に検討することで、より特定の病状・病態に関連した神経ネットワークの変化を明らかにすることを目的とする。

また、発症に強く関わるゲノム変異(GLO1 フレームシフトや 22q11.2 欠失など)を同定して、遺伝的背景が明確な統合失調症死後脳でも、比較検討することにより、さらに分子生物学的な背景との関連も明確化する。

3. 研究の方法

関連施設において剖検した統合失調症患者死後脳の生前の臨床診断、臨床経過、病前の社会適応、家族歴、神経画像等の臨床情報の収集に加えて、HE 染色、KB 染色、Gallyus-Braak 染色、抗リン酸化タウ免疫染色、抗アミロイド 免疫染色、抗リン酸化 -シヌクレイン免疫染色などにより、近年の診断基準に基づいた神経病理学的評価・診断を行い、死後脳の臨床情報・病理診断情報をデータベース化した。

データベースから、臨床表現型として、疾患と認知機能障害との関係について特に着目した。統合失調症の晩年の認知症症状と背景の一般病理所見との関連について明確化し、特定の臨床表現型を見出すために、アルツハイマー病理、-シヌクレイン病理、嗜銀顆粒病理、血管性変化などの病理や統合失調症の罹病期間、入院期間、使用薬剤などが認知症症状に与える影響を検討した。

また、稀なゲノム変異を有する統合失調症において、大脳皮質の肉眼的な形態学的な変化に加え、myelin oligodendrocyte glycoprotein や Tyrosine hydroxylase (MOG)、Neuropeptide Y (NPY) を免疫染色することにより、ミエリン・オリゴデンドロサイト、カテコラミン神経系、GABA 神経系の微細な形態学的検討を、ゲノム変異に応じて行った。

4. 研究成果

(1) 統合失調症の晩年の認知症症状と背景の一般病理所見との関連

剖検した精神神経疾患患者脳のうち、発症年齢が 40 歳より若年で、死亡時年齢が 60 歳以上の統合失調症(DSM-5) 32 症例を対象とし、臨床症状及び神経病理学的所見を検討した。

HE 染色、KB 染色、Gallyus-Braak 染色に加え、リン酸化タウ、アミロイド、リン酸化 -シヌクレインによる免疫染色を行い、アルツハイマー病理、-シヌクレイン病理、嗜銀顆粒病理、血管性変化などの病理所見を近年の病理診断基準(National Institute on Aging-Alzheimer's Association (NIA-AA) criteria や consensus report of the DLB Consortium criteria、Saito stage など)を用いて評価した。

32 症例の統合失調症のうち、7 例 (21.9%) において、神経病理学的に変性疾患(アルツハイマー型認知症 3 例、レビー小体型認知症 1 例、嗜銀顆粒病 2 例、嗜銀顆粒病/進行性核上性麻痺 1 例)が認められた。神経変性疾患を併発した統合失調症は併発していない統合失調症よりも有意に高齢であった。抗精神病薬、ベンゾジアゼピン受容体作動薬、抗コリン系パーキンソン病治療薬の薬剤使用において両者に有意な差はなかった(表 1)。また、

表1. 変性疾患を合併した統合失調症の臨床背景の比較

Clinical characteristics	cases with co-existing neurodegenerative diseases (n=7)	cases without co-existing neurodegenerative diseases (n=25)	P
Sex, male/female	4/3	17/8	0.667
Age at onset, years, median (IQR)	20(19-30)	22 (18-25)	0.688
Age at death, years, median (IQR)	80(74-89)	68 (64.5-71.5)	<0.001*
Duration of disease, years, median (IQR)	54(50-65)	46 (41-51.5)	0.013*
Duration of hospitalization, years, median (IQR)	44(39-52)	26(10-43)	0.006*
Family history of schizophrenia in first-degree relatives, n (%)	1(14.3)	2(8)	0.536
Years of education, years, median (IQR)	10.5(6-13.5)	9(9-12)	0.655
Diabetes mellitus, n (%)	0(0)	6(24)	0.296
Hypertension, n (%)	2(28.6)	1(4)	0.113
Dyslipidemia, n (%)	0(0)	2(8)	1
Antipsychotic dosage, chlorpromazine equivalent, mg, median (IQR)	600(150-1245)	600(400-914)	0.824
Benzodiazepine dosage, diazepam equivalent, mg, median (IQR)	0(0-5)	0(0-10)	0.592
Anticholinergic antiparkinsonian dosage, biperiden equivalent, mg, median (IQR)	2(0-3)	0.5(0-2)	0.624

アルツハイマー病理、 α -シヌクレイン病理、嗜銀顆粒病理、血管性変化などの各病理を定量的に評価し、加齢との関係を検討したところ、アミロイド、嗜銀顆粒の沈着の重症度は加齢に有意に相関していた。これらの結果は、統合失調症においても加齢が変性疾患併発のリスクファクターになることを示唆する。

32 症例の統合失調症のうち、25 症例は神経病理学的に変性疾患と診断されなかったものの、そのうちの 10 症例が、National Institute on Aging-Alzheimer's Association guidelines for the neuro-pathologic assessment of Alzheimer's disease の認知症の診断基準に合致し、臨床的には認知症症状を生じていた。認知症症状は 60 歳以降に発現し、進行性に悪化していた。

神経病理学的に変性疾患を合併していない統合失調症を、認知症症状の有無によって 2 群に分け、その臨床背景を比較検討したが、性別、発症年齢、死亡時年齢、罹病期間、入院期間、教育期間、薬剤などに有意な差は認められなかった。

表2. 変性疾患を合併していない統合失調症の神経病理所見の比較

Neuropathological findings	Cases with dementia(n=10)	Cases without dementia(n=15)	P
Postmortem interval, h, median (IQR)	5(2.5-14)	5(2-9)	0.77
Brain weight, g, median (IQR)	1264(1178.5-1340.25)	1160(1086-1324)	0.261
ABC score (NIA-AA guidelines) Low/Not, n	5/5	5/10	0.442
NFT Braak stage, median (IQR)	1.5(1-2.25)	1(1-2)	0.238
Thal phase, median (IQR)	0.5(0-1.25)	0(0-1)	0.397
CERAD neuritic plaque score, median (IQR)	0(0-1)	0(0-0)	0.216
Cerebral amyloid angiopathy score, median (IQR)	0(0-1)	0(0-0)	0.216
Brainstem subtype of Lewy body disease, n (%)	3(30)	3(20)	0.653
Argyrophilic grain, n (%)	0(0)	0(0)	1
Arteriolosclerosis score, median (IQR)	1(0-1.25)	0(0-1)	0.238
Large infarct, n (%)	0(0)	0(0)	1

また、ごく軽度の病理に関しても、この 2 群においてその影響を比較

検討したが、アルツハイマー病理、 α -シヌクレイン病理、嗜銀顆粒病理、血管性変化などの各病理に有意な差は認められなかった(表 2)。これらの結果は、統合失調症の晩年では、高率で認知症症状を生じること、一方で、その中には、既知の神経変性疾患病理のみでは、その認知症症状の説明が困難な一群が存在することを示唆する。統合失調症の病態には、GABA 神経系やオリゴデンドロサイト・ミエリンの異常が関与し、認知機能に影響を与えていることが推量されており (S. J. Dienel and D. A. Lewis. Neurobiol Dis, 2018, P. Falkai, et al. Front Cell Neurosci, 2016) 本研究で確認された、既知の神経変性疾患病理のみでは、その認知症症状の説明が困難な一群においても、GABA 神経系やオリゴデンドロサイト・ミエリンの異常に関連した神経ネットワークの障害が存在する可能性が示唆された。

(2) 稀なゲノム変異を伴う統合失調症の神経病理学的検討

22q11.2 欠失を伴う統合失調症、GL01 フレームシフトを伴う統合失調症において、オリゴデンドロサイト・ミエリン、GABA

神経系に加え、カテコラミン神経系の評価・検討を行った。オリゴデンドロサイト・ミエリンは抗 MOG 抗体、抗 Nogo-A 抗体を用いて染色し、GABA 神経系は抗 NPY 抗体、カテコラミン神経系は抗 Tyrosine hydroxylase (TH) 抗体を用

図 1 GL01 フレームシフト (GL01FS) 統合失調症死後脳解析



いて染色を行った。22q11.2 欠失を伴う統合失調症の上側頭回において MOG、Nogo-A の発現は低下していた。また、TH 陽性線維の synapse like の念珠状の構造物が疎であった。NPY 陽性線維は、蛇行傾向で断片化し、特徴のあるヘリックス構造、糸が絡まったような構造を示す傾向が観察された。GL01 フレームシフトを伴う統合失調症では、MOG の変化は明確ではなかったが、Nogo-A の発現は同様に低下し、TH 陽性線維、NPY 陽性線維に同様の形態変化が認められた (図 1)。この 2 症例に関し、論文化した。

Xq22.3-q23 領域に大規模な重複を有する症例では、死後脳形態解析、神経画像を含む臨床症状・経過の検討を行い、本症例では前頭葉穹窿面の皮質、脳梁が菲薄化していることを明らかにした。組織学的には、加齢性変化はごく軽度であり、本症例の形態変化は、神経発達における、神経突起の伸長異常、シナプス形成異常、遊走異常を反映している可能性が示唆された。

実際の統合失調死後脳を用いて、臨床経過と神経病理学的所見から、統合失調症に晩年生じる認知症状態の神経病理学的背景を確認した。さらに、稀なゲノム変異を有する統合失調症では、大脳皮質や、GABA 神経系、カテコラミン神経系、オリゴデンドロサイト/ミエリンの形態学的変化を明らかとした。臨床経過やゲノム変異に基づいた組織学的変化を確認したことによって、疾患の脳病態の理解が進むと考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 24件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Arafuka Shusei, Fujishiro Hiroshige, Iritani Shuji, Torii Youta, Miwa Ayako, Yabata Hiroyuki, Sekiguchi Hirotaka, Habuchi Chikako, Kawashima Kunihiro, Yoshida Mari, Iwasaki Yasushi, Ozaki Norio	4. 巻 22
2. 論文標題 Striatal 123 I 2 carbomethoxy 3b (4 iodophenyl) N (3 fluoropropyl) nortropane single photon emission computed tomography demonstrates nigral degeneration in the early stage of behavioural variant frontotemporal dementia: an autopsy case with frontotemporal lobar degeneration with trans activation response DNA protein 43 type B	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 580 ~ 585
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Itaru Kushima, Masahiro Nakatochi, Branko Aleksic, Takashi Okada, Hiroki Kimura, Hidekazu Kato, Mako Morikawa, Toshiya Inada, Kanako Ishizuka, Youta Torii, . . . , Norio Ozaki	4. 巻 92
2. 論文標題 Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biological Psychiatry	6. 最初と最後の頁 362 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biopsych.2022.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Fujishiro Hiroshige, Arafuka Shusei, Ogasawara Kazuyoshi, Iwamoto Kunihiro, Miyata Seiko, Torii Youta, Iritani Shuji, Ozaki Norio	4. 巻 23
2. 論文標題 Temporal trajectories of proposed biomarkers in psychiatric onset prodromal dementia with Lewy bodies: a case report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 196 ~ 200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12922	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kimura Hiroki, Yokoyama Haruka, Torii Youta, Fujishiro Hiroshige	4. 巻 38
2. 論文標題 Electroconvulsive therapy as a potential therapeutic option in psychiatric onset prodromal dementia with Lewy bodies	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5863	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arafuka Shusei, Sekiguchi Hiroataka, Fujishiro Hiroshige, Iritani Shuji, Torii Youta, Habuchi Chikako, Yoshida Mari, Iwasaki Yasushi, Ozaki Norio, Fujita Kiyoshi	4. 巻 77
2. 論文標題 Late onset panic disorder as the initial presentation in autopsy confirmed dementia with Lewy bodies	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 242 ~ 244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13532	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Torii Youta, Iritani Shuji, Fujishiro Hiroshige, Sekiguchi Hiroataka, Habuchi Chikako, Ikeda Toshimasa, Yoshida Mari, Iwasaki Yasushi, Ozaki Norio, Kawashima Kunihiro	4. 巻 23
2. 論文標題 An autopsy case of schizophrenia comorbid with argyrophilic grain disease	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 371 ~ 373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12935	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro Hiroshige, Matsubayashi Rika, Torii Youta, Iwamoto Kunihiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Response to 'Fluctuation of dopamine transporter availability in psychiatric onset dementia with Lewy bodies: the dilemma of treatment with antidepressants'	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12948	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒深周生, 鳥居洋太, 尾崎紀夫	4. 巻 40
2. 論文標題 ゲノム解析研究とブレインバンク	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 422 ~ 429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居 洋太, 荒深 周生	4. 巻 33
2. 論文標題 【老年精神医学と脳組織研究リソース;精神科ブレインバンクの現在と未来】精神科ブレインバンクにおけるゲノム研究との連携	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1181-1185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糸川 昌成, 大島 健一, 鳥海 和也, 吉川 茜, 堀内 泰江, 宮下 光弘, 宮野 康寛, 石田 裕昭, 小堀 晶子, 井上 智子, 新井 誠, 鳥居 洋太, 久島 周, 入谷 修司, 尾崎 紀夫, 鈴木 芳生, 野口 千太, 雑賀 里乃, 水谷 隆太	4. 巻 124
2. 論文標題 エネルギー器官としての脳 組織構造と統合失調症	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 688-699
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 世堯, 鳥居 洋太, 尾崎 紀夫	4. 巻 123
2. 論文標題 注意欠如・多動症と診断されていた若年性Alzheimer型認知症の1例 成人期ADHDと若年性認知症の類似点, 鑑別点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 317-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹田和弘, 鳥居洋太, 入谷修司, 藤城弘樹	4. 巻 32
2. 論文標題 【認知症の疾患概念について考える;歴史的事項から将来まで】レビー小体病の臨床病理学的概念とレビー小体型認知症診断基準の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1058-1067
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miwa A, Hirano M, Torii Y, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Yoshida M, Iwai K, Kawashima K, Iritani S	4. 巻 33
2. 論文標題 Clinicopathological investigation of the background of cognitive decline in elderly schizophrenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Neuropsychiatr.	6. 最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/neu.2020.40.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nitta A, Izuo N, Hamatani K, Inagaki R, Kusui Y, Fu K, Asano T, Torii Y, Habuchi C, Sekiguchi H, Iritani S, Muramatsu SI, Ozaki N, Miyamoto Y	4. 巻 11
2. 論文標題 Schizophrenia-Like Behavioral Impairments in Mice with Suppressed Expression of Piccolo in the Medial Prefrontal Cortex	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Pers Med	6. 最初と最後の頁 607
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/jpm11070607.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saiga R, Uesugi M, Takeuchi A, Uesugi K, Suzuki Y, Takekoshi S, Inomoto C, Nakamura N, Torii Y, Kushima I, Iritani S, Ozaki N, Oshima K, Itokawa M, Arai M, Mizutani R	4. 巻 11
2. 論文標題 Brain capillary structures of schizophrenia cases and controls show a correlation with their neuron structures	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 11768
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-91233-z.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiro Takeda, Youta Torii, Hiroshige Fujishiro, Naoki Atsuta, Shuji Iritani, Kunihiro Kawashima	4. 巻 21
2. 論文標題 Visual text hallucinations in a patient with posterior cortical atrophy attributable to Alzheimer's disease and Lewy body disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 683-685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12701.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mizutani R, Saiga R, Yamamoto Y, Uesugi M, Takeuchi A, Uesugi K, Terada Y, Suzuki Y, De Andrade V, De Carlo F, Takekoshi S, Inomoto C, Nakamura N, Torii Y, Kushima I, Iritani S, Ozaki N, Oshima K, Itokawa M, Arai M.	4. 巻 11
2. 論文標題 Structural diverseness of neurons between brain areas and between cases.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 49-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-020-01173-x.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sekiguchi H, Fujishiro H, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 75
2. 論文標題 Can we identify prodromal dementia with Lewy bodies in late-life depression?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci.	6. 最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13187.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Torii Y, Iritani S, Ozaki N.	4. 巻 75
2. 論文標題 Dopaminergic circuitry in late-life depression and Lewy body disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci.	6. 最初と最後の頁 69-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13181.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro H, Torii Y, Iritani S.	4. 巻 21
2. 論文標題 Gender differences in early presentation and pathological subtypes in dementia with Lewy bodies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 142-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12626.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Torii Y, Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Kushima I, Kawakami I, Itokawa M, Arai M, Hayashida S, Masaki K, Kira JI, Kawashima K, Ozaki N.	4. 巻 223
2. 論文標題 The accumulation of advanced glycation end-products in a schizophrenic patient with a glyoxalase 1 frameshift mutation: An autopsy study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophr Res.	6. 最初と最後の頁 356-358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2020.09.012.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Torii Y, Iritani S, Marui T, Sekiguchi H, Habuchi C, Fujishiro H, Kushima I, Oshima K, Niizato K, Hayashida S, Masaki K, Kira JI, Yoshida M, Ozaki N.	4. 巻 223
2. 論文標題 Morphological alteration of myelin-oligodendrocytes in a schizophrenic patient with 22q11.2 deletion syndrome: An autopsy study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophr Res.	6. 最初と最後の頁 353-355
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2020.07.003.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano M, Iritani S, Fujishiro H, Torii Y, Kawashima K, Sekiguchi H, Habuchi C, Yamada K, Ikeda T, Hasegawa M, Ikeuchi T, Yoshida M, Ozaki N.	4. 巻 40
2. 論文標題 Globular glial tauopathy Type I presenting with behavioral variant frontotemporal dementia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropathology.	6. 最初と最後の頁 515-525
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/neup.12668.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itokawa M, Oshima K, Arai M, Torii Y, Kushima I, Iritani S, Ozaki N, Saiga R, & Mizutani R	4. 巻 74
2. 論文標題 Cutting edge morphological studies of post mortem brains of patients with schizophrenia and potential applications of X ray nanotomography (nano CT)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 176 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Mitsuaki, Iritani Shuji, Sekiguchi Hiroataka, Torii Youta, Habuchi Chikako, Fujishiro Hiroshige, Ozaki Norio, Yoshida Mari, Fujita Kiyoshi	4. 巻 20
2. 論文標題 Background of the neuropathological site in neurocognitive decline in elderly schizophrenic patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 522-527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12522	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Mitsuaki, Iritani Shuji, Fujishiro Hiroshige, Torii Youta, Habuchi Chikako, Sekiguchi Hiroataka, Yoshida Mari, Ozaki Norio	4. 巻 39
2. 論文標題 Clinicopathological differences between the motor onset and psychiatric onset of Huntington's disease, focusing on the nucleus accumbens	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropathology	6. 最初と最後の頁 331 ~ 341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/neup.12578	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro Hiroshige, Kimura Hiroyuki, Nakamura Tomohiko, Torii Youta, Iritani Shuji, Ozaki Norio	4. 巻 19
2. 論文標題 Hypochondriasis in the elderly and Lewy body disease	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 516 ~ 518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12425	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujishiro, H. Okuda, M. Iwamoto, K. Miyata, S. Torii, Y. Iritani, S. Ozaki, N.	4. 巻 16
2. 論文標題 Clinical profiles of late-onset psychiatric patients exhibiting incidental REM sleep without atonia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Neural Transm (Vienna)	6. 最初と最後の頁 1095 ~ 1104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00702-019-02035-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居 洋太、入谷 修司	4. 巻 34
2. 論文標題 【知っておきたい稀な精神症候・症候群-症例から学ぶ-】後部皮質萎縮症	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 157-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糸川 昌成, 大島 健一, 新井 誠, 鳥居 洋太, 久島 周, 入谷 修司, 尾崎 紀夫, 雑賀 里乃, 水谷 隆太	4. 巻 121
2. 論文標題 放射光ナノトモグラフィ法を用いた統合失調症における神経細胞の構造変化の解析 脳組織の幾何学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 926-940
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雑賀里乃, 水谷隆太, 竹腰 進, 井野元智恵, 中村直哉, 鳥居洋太, 久島 周, 入谷修司, 尾崎紀夫, 糸川昌成, 大島健一, 新井 誠	4. 巻 19
2. 論文標題 神経細胞の形の個人差と統合失調症脳での構造変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 分子精神医学	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 荒深周生, 鳥居洋太, 入谷修司, 藤城弘樹, 平野光彬, 関口裕孝, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 吉田真理, 岩崎靖, 尾崎紀夫
2. 発表標題 統合失調症における神経変性疾患病理所見と認知機能障害との関係
3. 学会等名 第63回神経病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹田和弘, 藤城弘樹, 荒深周生, 鳥居洋太, 関口裕孝, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司, 尾崎紀夫
2. 発表標題 純粋なArgyrophilic Grain Disease (AGD)の臨床病理学的な検討 名古屋大学精神科コンソーシアムブレインバンクでの128剖検例から
3. 学会等名 第63回神経病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹田和弘, 藤城弘樹, 荒深周生, 鳥居洋太, 関口裕孝, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司, 尾崎紀夫
2. 発表標題 純粋Primary age-related tauopathy (PART)の臨床病理学的な検討 名古屋大学精神科コンソーシアムブレインバンクでの128剖検例から
3. 学会等名 第63回神経病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒深周生, 関口裕孝, 藤城弘樹, 鳥居洋太, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司
2. 発表標題 パニック障害が認知機能低下/パーキンソニズムに先行したレビー小体型認知症の一部検例
3. 学会等名 第58回名古屋臨床神経病理アカデミー (日本神経病理学会名古屋地方会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹田和弘, 藤城弘樹, 鳥居洋太, 三輪綾子, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 宮原弘明, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司, 川島邦裕
2. 発表標題 50歳代に被害的な幻聴・妄想が出現し70歳代で剖検に至った、遅発性統合失調症の一例
3. 学会等名 第58回名古屋臨床神経病理アカデミー (日本神経病理学会名古屋地方会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥居 洋太
2. 発表標題 精神科ブレインバンクと脳科学研究 神経病理から考える内因性精神疾患の病態
3. 学会等名 BPCNP/PP4 学会合同年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒深 周生, 関口 裕孝, 藤城 弘樹, 鳥居 洋太, 三輪 綾子, 羽淵 知可子, 吉田 眞理, 尾崎 紀夫, 入谷 修司, 岩崎 靖
2. 発表標題 パニック症が先行したレビー小体型認知症 (DLB) の一部検例
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三輪 綾子, 鳥居 洋太, 関口 裕孝, 羽淵 知可子, 藤城 弘樹, 宮原 弘明, 岩崎 靖, 吉田 眞理, 川島 邦裕, 入谷 修司
2. 発表標題 長期入院を余儀なくされた, 視覚・聴覚障害を有した遅発パラフレニーの一部検例
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 入谷 修司, 関口 裕孝, 鳥居 洋太, 羽淵 知可子, 藤城 弘樹, 河上 緒
2. 発表標題 老年期精神神経疾患における脳組織研究 ~ 過去・現在そして未来へ ~ 老年精神医学における臨床神経病理学からブレインバンクへ 過去から未来への期待
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥居洋太
2. 発表標題 老年期精神神経疾患における脳組織研究～過去・現在そして未来へ～ 精神科ブレインバンクにおけるゲノム研究との連携・統合失調症病態研究
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥居 洋太, 荒深 周生, 三輪 綾子, 関口 裕孝, 羽瀨 知可子, 藤城 弘樹, 古泉 龍一, 吉田 眞理, 岩崎 靖, 尾崎 紀夫, 入谷 修司, 川島 邦裕
2. 発表標題 晩年に認知症症状を呈したcingulectomy施行後統合失調症の一部検例
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関口 裕孝, 宮原 研吾, 入谷 修司, 鳥居 洋太, 吉田 眞理, 岩崎 靖, 藤田 潔
2. 発表標題 常同行動と周回を伴い,Frontal variant ADと考えられた剖検例
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤城 弘樹, 鳥居 洋太, 入谷 修司
2. 発表標題 prodromal DLB:精神科,脳神経内科のクロストーク Prodromal DLBの診断基準と診療の実際
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会[合同開催]
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥居洋太
2. 発表標題 高齢者の抑うつ状態とその理解
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒深周生, 藤城弘樹, 鳥居洋太, 三輪綾子, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 矢端博行, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司, 川島邦裕
2. 発表標題 基底核ドーパミントランスポーターの取り込み低下を認めた行動障害型前頭側頭型認知症の一部検例
3. 学会等名 第57回名古屋臨床神経病理アカデミー（日本神経病理学会名古屋地方会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹田和弘, 藤城弘樹, 関口裕孝, 鳥居洋太, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 赤木明生, 吉田眞理, 岩崎靖, 入谷修司, 藤田潔
2. 発表標題 心気症状、体感幻覚を呈した 90 歳代女性の一部検例
3. 学会等名 第57回名古屋臨床神経病理アカデミー（日本神経病理学会名古屋地方会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鳥居洋太, 入谷修司, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 藤城弘樹, 久島周, 川島邦裕, 吉田眞理, 尾崎紀夫
2. 発表標題 Xq22.3-q23重複を有する統合失調症の一部検例
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口莉菜, 関口裕孝, 鳥居洋太, 入谷修司, 古泉龍一, 吉田眞理, 岩崎靖, 藤田潔, 尾崎紀夫
2. 発表標題 若年で発症した後頭皮質萎縮症の一部検例
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, Habuchi C, Sekiguchi H, Masaki K, Hayashida S, Kira J, Ozaki N
2. 発表標題 Immunohistochemical investigation of oligodendrocyte-myelin in a postmortem schizophrenic brain with 22q11.2 deletion,
3. 学会等名 第25回グリア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒深周生, 鳥居洋太, 入谷修司, 藤城弘樹, 平野光彬, 関口裕孝, 三輪綾子, 羽瀧知可子, 吉田眞理, 岩崎靖, 尾崎紀夫
2. 発表標題 統合失調症における神経変性疾患病理所見と認知機能障害との関係
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関口 裕孝, 羽瀧 知可子, 鳥居 洋太, 藤田 潔, 吉田 眞理, 入谷 修司
2. 発表標題 双極性障害の長期経過中に認知症を呈した3剖検例
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平野 光彬, 鳥居 洋太, 藤城 弘樹, 関口 裕孝, 羽瀨 知可子, 三輪 綾子, 合澤 祐, 吉田 眞理, 入谷 修司, 尾崎 紀夫
2. 発表標題 長期罹患統合失調症にみられる認知症症状の背景病理の探索
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関口 裕孝, 藤田 潔, 羽瀨 知可子, 合澤 祐, 粉川 進, 鳥居 洋太, 三輪 綾子, 川島 邦裕, 岩井 清, 平野 光彬, 吉田 眞理, 入谷 修司
2. 発表標題 精神科ブレインバンク各拠点からの成果と今後の臨床への展望-精神科ブレインバンクへの期待その4- 名古屋ブレインバンクコンソーシアムのこれまでの取り組みと展望
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹田 和弘, 鳥居 洋太, 藤城 弘樹, 入谷 修司, 川島 邦裕
2. 発表標題 Visual text hallucinationを呈したPCAの一例
3. 学会等名 第35回日本老年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野光彬, 鳥居洋太, 藤城弘樹, 三輪綾子, 山田健太郎, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 合澤祐, 岩井清, 川島邦裕, 池田知雅, 吉田眞理, 入谷修司
2. 発表標題 臨床的に行動異常型前頭側頭型認知症と診断された精神病症状を伴うGlobular glial tauopathy Type Iの一例
3. 学会等名 第61回日本神経病理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, Habuchi C, Sekiguchi H, Kushima I, Miwa A, Mizutani R, Itokawa M, Kawashima K, Ozaki N
2. 発表標題 Neuropathological investigation in an autopsy case of schizophrenia with Glyoxalase 1 (GL01) frameshift mutation
3. 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayako Miwa , Youta Torii, Shuji Iritani, Hiroataka Sekiguchi, Chikako Habuchi, Hiroshige Fujishiro, Mitsuaki Hirano, Mari Yoshida, Kiyoshi Iwai, Kunihiro Kawashima
2. 発表標題 Neuropathological background of dementia symptoms in the illness process of Schizophrenia (formerly called Dementia praecox)
3. 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水谷 裕樹 ,石川 新, 鳥居 洋太, 入谷 修司, 尾崎 紀夫
2. 発表標題 抑うつ症状に電気けいれん療法が奏功したpossible corticobasal syndrome (CBS)の一症例
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野口 千太, 雑賀 里乃, 竹腰 進, 井野元 智恵, 中村 直哉, 大島 健一, 糸川 昌成, 新井 誠, 鳥居 洋太, 久島 周, 入谷 修司, 尾崎 紀夫, 竹内 晃久, 上杉 健太郎, 寺田 靖子 鈴木 芳生, De Andrade, Vincent De Carlo Francesco, 水谷, 隆太
2. 発表標題 放射光ナノトモグラフィ法によるヒト脳神経細胞の三次元解析
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬, 入谷修司, 藤城弘樹, 鳥居洋太, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 合澤祐, 三輪綾子, 藤田潔, 吉田眞理, 尾崎紀夫
2. 発表標題 ハンチントン病における精神症状の神経病理学的背景
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬, 入谷修司, 関口裕孝, 藤城弘樹, 鳥居洋太, 三輪綾子, 羽瀨知可子, 合澤祐, 池田知雅, 安藤孝志, 吉田眞理, 藤田潔, 尾崎紀夫
2. 発表標題 認知機能低下を呈し、家族性特発性基底核石灰化症が疑われた姉妹剖検例
3. 学会等名 第60回日本神経病理学会総会学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬, 鳥居洋太, 三輪綾子, 山田健太郎, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 合澤祐, 藤城弘樹, 岩井清, 川島邦裕, 入谷修司, 吉田眞理, 尾崎紀夫
2. 発表標題 精神病症状と徘徊が目立ち比較的長期経過を辿ったGlobular glial tauopathyの一部検例
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光彬, 鳥居洋太, 藤城弘樹, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 三輪綾子, 合澤祐, 吉田眞理, 入谷修司, 尾崎紀夫
2. 発表標題 長期罹患統合失調症にみられる認知症症状の背景病理の探索
3. 学会等名 第24回日本神経精神医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅田 健太郎, 河上 緒, 村端 祐樹, 新里 和弘, 大島 健一, 渡辺 亮平, 関口 裕孝, 羽瀨 知可子, 鳥居 洋太, 池田 研二, 長谷川 成人, 村山 繁雄, 入谷 修司, 齋藤 正彦
2. 発表標題 摂食障害患者の死後脳を用いた神経病理的検討
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田潤、小林正人、鳥居洋太、尾崎紀夫
2. 発表標題 口腔内違和感の訴えからコタール症候群へ至った一例
3. 学会等名 第178回東海精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居洋太, 入谷修司, 三輪綾子, 岩井清, 平野光彬, 藤城弘樹, 関口裕孝, 羽瀨知可子, 吉田真理, 尾崎紀夫, 川島邦裕
2. 発表標題 複合変性病理解像を有し焦燥・易怒性が顕著であった認知症一例
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居洋太
2. 発表標題 精神症状の神経病理 統合失調症死後脳の神経病理(ワークショップ)
3. 学会等名 第60回日本神経病理学会総会学術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥居洋太
2. 発表標題 精神疾患の臨床病理検討(CPC)から疾病を理解する精神科ブレインバンクへの期待(その3) 統合失調症における臨床病理検討 (clinicopathological conference;CPC)の重要性 (シンポジウム)
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口世堯, 鳥居洋太, 白井敏晶, 尾崎紀夫
2. 発表標題 ADHDと診断されていたAlzheimer型認知症の一例
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 台澤 祐, 関口 裕孝, 三輪 綾子, 平野 光彬, 羽濑 知可子, 鳥居 洋太, 藤城 弘樹, 岩崎 靖, 吉田 眞理, 入谷 修司, 粉川 進
2. 発表標題 カプグラ妄想を呈した認知症の一部検例
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口 裕孝, 入谷 修司, 鳥居 洋太, 吉田 眞理, 藤田 潔
2. 発表標題 記憶障害とパーキンソニズムで発症し幻視、嗅語困難、被害・嫉妬妄想を呈した83歳女性の一部検例
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 藤城弘樹, 鳥居洋太, 入谷修司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ワールドプランニング	5. 総ページ数 7
3. 書名 認知症専門医のための臨床神経病理学 第 部 認知症外来における神経病理学的アプローチ 第1章 臨床精神医学と臨床神経病理の接点 (1) Prodromal DLBの多様性と脳病理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	荒深 周生 (Arafuka Shusei)	名古屋大学大学院医学系研究科・精神医学分野・大学院生	
研究協力者	入谷 修司 (Iritani Shuji)	名古屋大学大学院医学系研究科・精神医学分野・客員研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------